



園研究のはなし

研究主題 「質の高い幼児教育の実現に向けて」(札幌市立幼稚園共通)
 ~つながる ひろがる 札幌市の幼児教育~
 副主題 『幼保小連携・接続のよりよい推進のために』(北区・東区共通)
 重点 『子どもの学びをつなげる』(北区・東区共通)

北区の白楊幼稚園と東区のひがしなえぼ幼稚園では上記の共通の研究副主題、重点で、①幼児の育ちを支える ②教師同士の連携 ③児童と幼児の交流の3つの方法で研究を進めてきました。研究通信の今年度最終号は両区の研究のまとめについてお知らせします。



白楊幼

① 幼児の育ちを支える

ひがしなえぼ幼



幼児の様々な活動の場面を通して『10の姿』で育ちを振り返ったり、今後の育ちを見通したりし、育ってほしい姿につながる教師の援助を探ってきた。例えば…

3歳児事例より

今までより高い台に登りたいが、なかなか登れない。どうするか教師と相談し…

積み木を踏み台にしよう！



やっと登れた！



<育ってほしい姿につながる教師の援助>

- 登れるように台を低くするのではなく、高い台に踏み台を使ってでも「登れた！」という満足感を味わえるように支える。
- 思いや考えを認め、実現する経験を積み重ねられるようにすることが大切。それが主体性につながる。

来年度は…『3つの資質・能力』の視点ももち 接続期以降も見通していきたい。

主体的・対話的で深い学びの視点から幼児の姿をエピソードで取り上げ、学びのつながりを目指し、幼児の育ち、教師の援助と環境構成について探ってきた。

<エピソードから分かった幼児の育ち>

- 今もっている技術を使って、取り組めるようになる。
- 目的をもって力を発揮するようになる。
- 互いに協力し合いながら『作る・できる』ことに満足感・達成感を得られるようになる。

4歳5歳一緒に月火水木で鬼ごっこの鬼きめ中です。



<教師の援助・環境構成>

- 自立の方向に向けて距離感をもつようになる。
- 考える余地を作り、幼児自身で行動したり取り組んだりできるようにする。
- 幼児同士で解決できることは見守り、最終的には互いに納得し合えるようにする。



白楊幼

② 教師同士の連携

ひがしなえぼ幼



白楊小、白楊幼合同で年長児の事例を用いて幼児期の遊びにどのような学びがあるか、幼児期の経験が小学校以降の教育にどのようなつながっていくかを見取る研修を行った。小学校の教師は幼児期についての理解を深め、幼稚園の教師は幼児期に大切にしていることが小学校以降の学びにつながっていくことを確認できる有意義な研修となった。

<幼児期と小学校の学びのつながり (一部抜粋)>

- ① 物事に対して主体的に考える経験。
- ② 解決していく意欲につながる。
- ③ 試行錯誤しながら作り上げる経験。
- ④ 算数や図工で具体的に想像しながら自ら関わっていく力につながる。

合同研修会や保育・授業参観を通して確認できたこと

- ・打合せを丁寧に行うことで、交流の目的やねらいなどが共有され、効果的な交流へとつながる。
- ・互いの実践や子どもの姿を見合うことで、学びのつながりや、共通点など共有することができる。

<幼小で大切にしたい点は…>

遊びを通した人間関係の育ち	話したくなる経験や環境があることで、表現したり積極的に物事に取り組もうとしたりする力
安心して表現できる雰囲気づくり	学びを友達と共有することが楽しいと感じる気持ち
考えたことを実現していく力	



白楊幼

③ 児童と幼児の交流

ひがしなえぼ幼



【年長児と5年生】【年長児と1年生】の交流を引き続き実施した。1年生との交流には今年度から白楊小校区の4つの保育園にも声を掛けて一緒に実施し、幼保小連携の新たな一歩を踏み出すことができた。



『地域で育てる』地域の年長児と一緒に交流に参加し、みんなで育ちを共有！

【年長児とちあふるきた年長児】の交流を今年度から始め、「互いの学級の好きな遊びを紹介する」活動では子どもたちが**共通した目標に向かって力を合わせながら遊びを進めようとする姿**につながりました。

「ハンター鬼を紹介します！」相手に伝わりやすい方法を考えました。



<幼児と児童が交流することでの幼児の育ち>

- ・『何かをしてもらう』のではなく、『一緒に』取り組む、遊ぶなどということが大事で、距離感が縮まり互いがわかるようになっていく。
- ・知っている、見たことがあるなどの思いが『安心感・不安の軽減』につながる。
- ・人と関わる心地よさを感じることができ、人と関わる力が育まれる。
- ・『環境の交流（グラウンドで遊ぶ・学校探検 など）』は、緊張せず自分たちのペースで見たり体験したりできたので、安心感や就学への期待感などにつながりやすい。

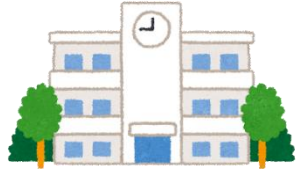


広い体育館で思い切り遊ぶ

学びをつなぐ幼保小

スムーズな接続のための関係

小学校



授業や保育を参観し合ったり、研修を行ったりなど互いの教育についての理解を深めることが、学びをつなぐためには大切！

育てたい力を共有する・学びをつなぐ

②教師同士の連携

③児童と幼児の交流

保育所



幼稚園



①幼児の育ちを支える

育てたい力を共有する

①幼児の育ちを支える

幼児期に大切にしていることを教師、保育者が確認し合うことは大切！幼児同士も刺激を受け合える。



幼児期研修

小学校の先生が休み時間に遊びに来てくれる関係に！

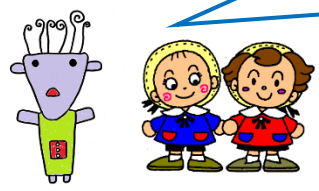


スタートカリキュラムの見直しを幼小合同で行っています。

『幼保小連携・接続のよりよい推進のために』を副主題に研究を推進して2年が経ちました。交流のポイントである『どのような交流で何を育てたいか、教師同士での打合せと振り返りが大切』を意識して交流を進め、顔を合わせることが増え、教師間の連携も更に進んできました。各区の取組については詳しい資料もありますので、ぜひお問い合わせください。また、3月末に札幌市教育委員会より発行される『つながるひろがるハンドブック』もぜひご活用ください。

来年度は本研究主題、副主題での研究最終年度となります。引き続き、北区の白楊幼稚園と東区のみがしなえぼ幼稚園で連携し、成果や課題を共有しながら研究を推進していきます。来年度もこの研究便りは北区、東区の両区に発信させていただきます。

白楊幼稚園
(011) 736-0764



ひがしなえぼ幼稚園
(011) 782-8640